

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	るーと		
○保護者評価実施期間	2025年 10月 8日 ~ 2025年 11月 30日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26	(回答者数) 23
○従業者評価実施期間	2025年 11月 17日 ~ 2025年 11月 30日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 15日		

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保育士と作業療法士の専門性を活かした支援ができていること。	目標や活動プログラムについて、保育士と作業療法士がそれぞれの視点から意見を出し合い、相談する機会を作っている。	それぞれの専門領域の質を高めていくことによって、お子さんとご家族への支援の質の向上に繋げていく。
2	看護師の配置によって、医療的ケアの必要なお子さんの利用が可能であること。	複数の看護師を配置することで、利用する機会の確保と安心して利用できることに繋げている。 看護師と保育士、作業療法士の連携によって、安全に楽しく参加する方法を考えている。	人の配置や物の準備などの環境設定を整えていくことで、幅広いお子さんとご家族にご利用いただける状態を作っていく。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われる	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	安全管理に関するマニュアルや研修、訓練などの周知が徹底できていないこと。	必要な取り組み（委員会の開催、研修や訓練の実施、など）は行なっているが、それを保護者の方に発信する機会が少ないこと。	通信の発行頻度は少しづつ上げることができているが、LINE等も使いながらタイムリーな情報共有を実施できるように検討していく必要がある。
2	地域交流の機会を作ることが少ないこと。	並行通園等が多い地域の現状の中で、このような機会を事業所として実施する意味を検討しきれていないこと。	地域の状況等も考慮しながら、当事業所として実施する意味や効果を明確に考えていくことが必要である。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	るーと	公表日	2025年 12月 26日					
		利用児童数	28	回収数	23			
		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	19	2			今でも問題ないけど、もうちょい広いと嬉しい	お子さんが活動に取り組みやすいスペースを確保できるように環境設定を行なっていく。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	21				専門的な支援のおかげで日々成長している	
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	21					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	21					
適切な支援の提供	5	子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	22			1	専門的な事が分からずから、合ってるかどうかもわかりません。	お子さんの状況などを踏まえた支援の説明に努める。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	22			1		
	7	子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	20	1			毎回とても丁寧に聞き取りを行なってくださっている。 子供の困りごとで相談した事をしっかりと聞いて下さり、支援計画を立てていただいている。	
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	20	1			そのときその子どもの課題を見つけ、無理なく支援の方向性を提示していただいている	
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	20	1			支援計画に沿って支援していただいているだけでなく、そのとき新たに出てきた課題にも臨機応変に支援していただいている	
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	19	2			いつも様々な工夫のされた遊び、活動をして下さっていると感じています。	
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	11			10	るーとしてなのか、本人がななか質問がよくわかりませんでした	地域での交流については、事業所としての必要性を考慮しながら検討していきたいと考えています。
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	21				とても丁寧に伝えていただいている	
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	21				丁寧に伝えていただき、支援内容を理解できている いつも丁寧にして頂いています	
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	13		1	7		明確な家族支援プログラムとしては行なってはいないが、送迎時に生活中の関わり等に関する相談を実施している。今年度は児童発達支援センターで実施されたペアレントトレーニングについて紹介を行なったが、引き続き活用できる資源について周知していく。
保護者への	15	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	19	1	1			お子さんの状況について全ての方に共有できていると感じられていないということを踏まえ、より一層丁寧な説明と細かな情報共有に努めることとする。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	20			1		面談については、必ず定期的に実施しているが、相談しきれていない現状があるということことで、職員の資質の向上に努め、相談の機会をしっかりとれるようにしていく。

説明等	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	23					
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	17	1		3		保護者会としての開催はしていないが、座談会や学習会は実施しており、そこでの交流の機会は作っている。
	19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	13			8		送迎の際などにご相談の機会は作っているが、それ以外の場面でも可能なことを改めて周知していく。
	20 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	20	1				
	21 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	19	1		1		
	22 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	20			1		
	23 事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	20			1		
非常時等の対応	24 事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	16			5		マニュアルの作成や訓練は実施していますが、すべての方に周知ができていないため、通信などを活用しながら周知を徹底したいと考えています。
	25 事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	23					
	26 事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	18			5	事故等がないので	引き続き、事故等があった際は速やかに報告し、対応についてご相談していきます。
	27 こどもは安心感をもって通所していますか。	23				親子共々安心して通わせてもらっています。 いつも行く時は楽しみなのか笑顔です。 毎週楽しみにしています。 信頼しています！	
満足度	28 こどもは通所を楽しみにしていますか。	20			1		
	29 事業所の支援に満足していますか。	21				いつも先生方のこども達への接し方が優しく可愛がってくださっているので安心して預ける事ができます。我が子もるーとの環境に慣れて先生方と色々な遊びを通して成長に繋がっているので感謝しています。 先生方は皆さん優しく、いつも丁寧な対応で安心してお任せ出来ています。 相談にも親身に対応して下さり感謝しています。いつもありがとうございます。今後とも宜しくお願ひいたします	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		るーと				公表日 2025年 12月 26日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	10		活動によって部屋を分けるなど、活動に支障のないスペースを確保できるようにしている。		
	2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	10		安全に療育ができる人員を配置している。保育士等に加え、作業療法士や看護師を配置している。		
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	10		活動の部屋と朝の会などをする部屋を分けるなど活動の切り替えをしやすくしている。また、視覚支援も用いながら、環境設定を行っている。視線入力装置や電動車椅子、スイッチ等も導入している。		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	10		清掃や消毒作業の実施。また、ティッシュやアルコール綿はお子さんに届かないところで大人が取りやすい配置にしており、ケアしやすい状況を作っている。		
	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	10		2部屋に分けていることで、お子さんの状態や支援の必要性に合わせて静かな環境で過ごせる環境を作っている。		
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	10		ミーティングやICTの活用によって、効率的な方法をスタッフ間で相談しながら取り組んでいる。また、お子さんの姿や支援方法を深めるためのミーティングも実施している。		
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10		評価表のご協力を依頼し、職員全体で意向の確認と改善点の抽出に取り組んでいる。		
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10		各部門の責任者とのミーティングを実施することで、それぞれの部門の改善点について相談する機会を作っている。		
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	5	外部評価は行なっていないが、今後必要性の検討を進めていく。	制度や必要性を確認しながら、検討していく。また、合わせて職員の周知を実施していく。	
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内などで研修を開催する機会が確保されているか。	10		月1回の研修を実施している。疾患や障害特性、支援方法、発達について、などのテーマで実施している。また外部研修への参加も補助している。		
・適応行動	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10		必要事項について、支援プログラムを公表している。		
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	10		ご家族のニーズをお聞きし、お子さんの姿を検討した上で、作業療法士と保育士の両方の視点から支援計画を作成している。		
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10		支援計画の原案をもとに、お子さんの状況やご家族のニーズを共有しながら支援計画の検討を実施している。		
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10		支援計画は職員がいつでも確認できるようにしており、それに基づいて支援ができるような環境を整えている。		
	15 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9	1	発達状況等のフォーマルな情報と共に訪問先での様子を観察しながら、お子さんの状況を把握するよう努めている。		
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10		計画の作成にあたってはガイドラインの項目を参照しながら、お子さんにとって必要な支援を検討し、具体的な支援内容の設定を行なっている。		

大切な支援の提供	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10		作業療法士と保育士がお互いの視点を活かしながら、活動の目的を考え、プログラムを立案している。	
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10		活動プログラムについては、偏りがないように考慮する一方で、お子さんの姿の変化を捉えたり、チャレンジしやすい状況を作るために、必要に応じて、意図的に、同じ活動を続けることもある。また、砂場など屋外での活動を取り入れている。	
	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	10		集団活動を基本としながら、個別での対応が必要な場面についてはそのような支援ができるように体制を整えている。	
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9	1	その日のお子さんの状態や活動の狙いを共有するように心がけている。また、ホワイトボードやスケジュール表を活用し、職員間でも見通しを持って支援ができるように取り組んでいる。	できている日とそうでない日があるため、前日までに内容や支援のポイントについて詰めておくなど日々できるように努めしていく。
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	10		お子さんの様子や関わり方など気づいた点について共有しています。また、ICT機器を用いた情報共有ツールでの情報共有も行なっている。	
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10		日々の支援については、お子さんの姿や健康状態等の記録を残し、次回の支援時に参考にできるように取り組んでいる。	
	23 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	10		定期的なモニタリングの実施及び支援計画の見直しを行っている。	
関係機関や保護者との連携	24 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	10		お子さんの姿や支援の目標を把握している児童発達支援管理責任者や直接支援に携わる者が参加している。	
	25 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9	1	ご家族を通して情報収集が中心であるが、書面や電話で主治医の先生からご指示をいただきながら支援を実施している。また、就園先や就学先とも情報交換を行なっている。	連携先について、より密に情報交換できる体制を構築していく。
	26 併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	10		並行通園を実施しているお子さんは多くおられる。また、ご家族や関係機関と相談しながら、必要に応じて移行先への情報共有を実施している。	
	27 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	10		ご家族や関係機関と相談しながら、必要に応じて進学先への情報共有を実施している。	
	(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29 質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30 (自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
地域の連携	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5	5	連携をとるよう努めているが、児童発達支援センターからスーパーバイズや助言を受ける機会はまだ持っていない。	研修への参加等を通して、児童発達支援センターからの助言等を受ける機会を検討していく。
	32 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他の子どもと活動する機会があるか。	5	5	お子さん同士の交流は実施できていない。	ご家族や本人のニーズも含めて、当事業所でのお子さんへの支援における必要性を考慮しつつ、あり方を検討していく。

		33 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	10		日々の連絡帳では、文章と写真でその日の様子を具体的にお伝えできるようにしている。また、送迎時にもその日の様子を伝えると共に対応方法や支援方針についてもお伝えしている。	
		34 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレンツ・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	10		特別なプログラムとしてではないが、日々の送迎の際に個々に子どもの関わりなどについて話をしている。また、年数回の座談会も実施している。	
保護者への説明等		35 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10		支援の内容については、見学に来ていただいた時、契約時にご説明している。利用者負担についても重要事項説明書を確認しながら説明している。	
		36 児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10		支援計画作成前には必ず面談を行い、お子さんやご家族の意向を確認するようしている。	
		37 「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	10		支援計画を作成した際には、保護者の方に目標や支援内容説明を行い、同意を得ている。	
		38 定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10		送迎時や保護者の方が気になることがあった時など、必要に応じてお話しする機会を作っている。	
		39 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	10		保護者交流の場として座談会を実施している。保護者の方同士の繋がりをつくることでも児童発達支援では大切だと考えているため、機会を増やしていくように取り組んでいく。	座談会は保護者交流の場にできているため、色々な曜日に開催することや頻度を増やすことなど、保護者の方が参加しやすいように取り組んでいく必要がある。
		40 こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10		契約時に苦情に対する対応体制と方法をお伝えし、利用者様に配布している通信で「ご質問箱」についてお伝えしている。	
		41 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	10		通信の配布やSNS等のツールの活用によって情報発信を行っている。	
		42 個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10		個人情報保護方針を定めて掲示し、必要事項については契約時に個人情報使用の同意書をいただいている。また、個人情報の含まれる書類については鍵付きの書棚に保管している。	
		43 障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10		連絡帳でのやりとりや通信などの配布、SNS等のツールの活用によって意思疎通や情報伝達をスムーズにできるように取り組んでいる。	
		44 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	5	事業所の行事への招待等はできていないが、事業所で作成した自助具等を地域のイベントで販売するなど、地域との繋がりを作れるよう努めている。	地域に開かれた事業所運営について、当事業所としてどのような取り組みができるかについて職員でも検討していく。
非常時等の対応		45 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	10		「安全管理マニュアル」として、対応マニュアルを作成している。保護者の方へは「安全のしおり」を配布し、災害等の対応について周知している。また、定期的な研修、訓練を実施し、通信にて報告している。	
		46 業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10		業務継続計画を作成し、それに基づいた研修と訓練を定期的に実施している。	
		47 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	10		アセスマントシート（児童票）を活用し、利用前に医療的に必要な事項については保護者の方と情報を共有している。	
		48 食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	10		給食ではないため、医師の指示書ははいだしていないが、保護者とは情報や対応を確認している。	引き続き、安全を確保しつつ、楽しく食べられる環境を整えていく。
		49 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10		マニュアルを作成し、職員への周知や定期的な研修、訓練を実施していく。	
		50 子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	10		安全計画に基づくものとしてのご紹介はできていないが、訓練などについては通信などで発信している。	研修や訓練の実施について通信等で発信する機会を増やしていく。

心	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	10		ヒヤリハット事例があった場合には、あらかじめ定めた書式に記載し、スタッフ全員で回覧し、それぞれが気づいたことを記入している。ICTを活用し、共有しやすい状況を作っている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	10		虐待を防止するためのマニュアルを作成し、スタッフ全員に虐待防止研修を実施している。また、定期的にセルフチェックシートで自身の状況の振り返りを実施している。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	10		やむをえず身体拘束を行う状況について個別支援計画書へ記載をしている。また、身体拘束を行う場合の決定については、身体拘束適正化委員会での協議の上決定し、マニュアルを作成している。	